

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.81

変わりゆく基町 2 ～天守が見つめた65+1年～



本紙第76号(昨年6月発行)で、昭和33年(1958)に再建された天守からの眺望により、基町の変化を見てきました。発行時は建設中だったサッカースタジアムもエディオンピースウイング広島として今年2月に、その手前ではひろしまスタジアムパークが8月に開業しました。試合の日は大歓声为天守にまで届きます。また一つ、基町に大きなランドマークが加わりました。

さて、今回は天守から南西方向、西方向の移り変わりをたどってみました。本号では時計回りに続きを見ていこうと思います。

※本稿で使用した写真は、現在の写真(令和6年(2024)7月撮影)および特に注記がある場合を除き、大段徳市氏撮影、広島市市民局文化振興課所蔵です。

北方向



まずは北方向から。①は昭和33年(1958)の広島復興大博覧会会期中の撮影(大下隆雄氏撮影)。正面は広島県基町高等学校(現広島市立基町高等学校)。視界を遮るものがなく、太田川や山陽本線の鉄橋を望むことができました。画面

左の武田山、中央の阿武^{あぶ}山の山容も目を引きま



②は①よりもやや西に振っていますが、昭和44年(1969)12月の撮影。画面左、内堀の北西隅がまだ完全には埋められていないのが注

目されます。堀の内側に住宅があることにも驚かされます。堀の改修工事が行われています。



③は平成10年(1998)10月の撮影。基町高校の新校舎の建設が進められています(西側の新校舎もふくめて平成12年(2000)完成)。エスカレーターや吹き抜けをもち、鏡のような壁面の、学校らしからぬデザインは大いに注目されました。



④が現在。正面の基町高校が目を引きますが、その向こうでは高層建築が壁のように立ち並び、武田山も阿武山も山頂部分がのぞくのみとなりました。

北東方向



⑤は昭和51年(1976)5月の撮影。画面やや

右寄りの中国郵政局の大きな新庁舎(現日本郵政グループ広島ビル)は前年の完成です。画面右端の建物は中国電波監理局(現中国総合通信局)。画面奥にはこれも前年開通した山陽新幹線の高架が伸びています。



⑥は現在。画面中央の2棟の高層マンション(平成25年(2013)~27年完成)、その右の国保会館(平成20年(2008)完成)や、さらに奥に立ち並ぶ高層建築により、景観は大きく変わりました。旧中国郵政局の庁舎や新幹線の高架、正面奥の二葉山はほとんど見えなくなりました。

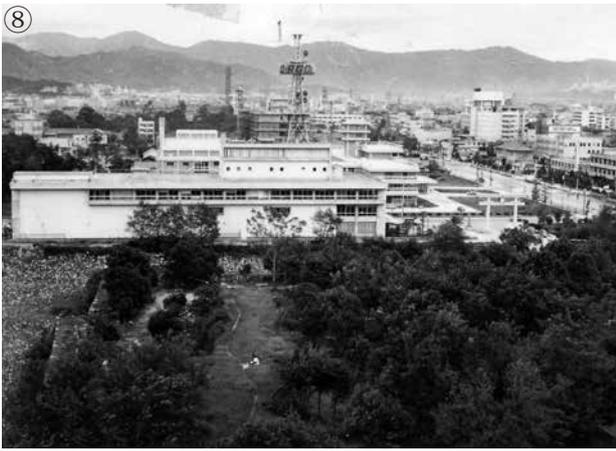
東方向



⑦は昭和36年(1961)6月の撮影。当時上柳町(現中区橋本町)にあった株式会社ラジオ中国(現株式会社中国放送)の新社屋が完成間近です。奥には昭和24年(1949)完成の木造2階建ての広島高等裁判所が見えます。

⑧は昭和39年(1964)9月の撮影。この年、高等裁判所の庁舎が建て替えられました。

⑨は現在。中国放送の社屋が増築され(昭和57年(1982))、高いアンテナタワーが目を引きます。右側のひとときわ高いビルは、平成15年



1号館)、同じく左寄りには日本電信電話公社(現NTT)のビルが見えます。



(2003)完成、その左の黒っぽい建物は平成24年(2012)完成の広島法務総合庁舎。画面奥、再開発が進む広島駅周辺では高層建築が林立しています。

⑫は昭和60年(1985)4月の撮影です。右寄りには前年9月に18階建てで完成したばかりの県庁東館、正面には昭和47年(1972)完成の合同庁舎2号館、左寄りでは同4号館の建設が進められています(昭和62年(1987)完成)。

南東方向



⑩は昭和33年(1958)、①と同じ日に撮影されたもの(大下隆雄氏撮影)。画面中央、6階建てながら県庁がひとときわ高く威容を誇っています。その手前の建物が社会保険広島市民病院(現広島市立広島市民病院)。県庁の左手奥には金輪島、そして画面右寄りには安芸の小富士といわれる似島の山容を望むことができます。

⑬は現在。合同庁舎2号館の奥には平成21年(2009)完成の高層建築がそびえています。画面右の広島市民病院は、平成20年(2008)にリニューアル工事が完成し、県庁東館が見えにくくなりました。現在、県庁東館のさらに南東では大規模な再開発事業が始まっており、令和9年(2027)度に地上31階、約160mの高層ビル

⑪は昭和44年(1969)12月の撮影。中央右寄りには昭和35年(1960)完成の広島合同庁舎(現

がそびえたつ予定になっています。近く景観が大きく変わることになるでしょう。右端には約180 mの高さを誇る高層マンションが、天守から約2.5 kmも離れていながらも存在感を見せて

います。残る南方向はまた改めて。（大室謙二）

※本紙第79号(令和6年3月10日発行)の記事において、【地図2】内に表記している「知恩院」は「知恩寺」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

コラム これからの広島城 城南地下道の美装化

広島城の南にある「城南地下道」を、色鮮やかなモザイクアートで彩りました！

城南地下道は、紙屋町方面から広島城表御門への主要なアクセスルートですが、暗いイメージがありました。そのため本市では、「中央公園の今後の活用に関する基本方針」（令和2年3月）や「広島城三の丸整備基本計画」（令和3年7月）等に基づき、広島城の魅力向上の一環として、令和4・5年度の2か年をかけてこの地下道の美装化に取り組んでいました。

本事業では、公立大学法人広島市立大学と本市が連携した地域貢献事業として、芸術学部の学生が中心となってデザインの作成・施工を行っています。

悠々と水の中を泳ぐ鯉のデザインは、広島城の別名「鯉城」にちなんだ鯉と広島川のモチーフとなっており、広島東洋カープの赤、サンフレッチェ広島の紫などをイメージした鯉がエリアごとに配され、歩きながら変化を楽しむことができます。材料は、金属箔や塩化ビニル製の装飾用シートで、10日間ほどかけて学生等が一枚ずつ壁面タイルに貼り付ける作業を行い、令和6年3月に完成しました。

広島城へ行く際には、ぜひ明るくなった地下道に注目してみてください。



（広島市市民局文化スポーツ部文化振興課広島城活性化担当）

しろうや！

広島城

編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

令和6年9月10日発行

広島城利用案内

開館時間 9:00～18:00（12月～2月は9:00～17:00）
入館の受付は閉館の30分前まで

観覧料 大人370円（280円）
高校生相当・シニア180円（100円）
中学生以下無料
（ ）内は30名以上の団体料金

休館日 12月29日～31日（その他臨時休館あり）

ホームページ <https://www.rijo-castle.jp>

📄「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます